

既設舗装版撤去の施工方法の工夫

工 事 名 上新BP 梨木・猪野山地区舗装その2工事

工 事 場 所 妙高市梨木から猪野山地先

会 社 名 株式会社 加賀田組 新潟支店

発 表 者 高橋 賢太郎

1.はじめに

本工事は、妙高市梨木から猪野山までの暫定2車線区間(約550m)において、改築拡幅と中央分離帯を構築する4車線化工事である。

今回行った、現道部における既設舗装版撤去の施工方法について、事例を紹介致します。

2.概要(現況状況)

下図(図-1)の赤色で着色した部分が中央分離帯の箇所となる。中央分離帯の位置は供用する現道部(2車線)の中央に構築するかたちとなる。(図-2)

中央分離帯の施工に先立ち、現道部の舗装版撤去を行う必要があり、当初設計では舗装版の切断と舗装版破碎(直接掘削BH)による取り壊し方法で計上されている。しかし現地の舗装厚は、25cm～30cmであることから、破碎機(ブレーカー)も併用する必要があった。

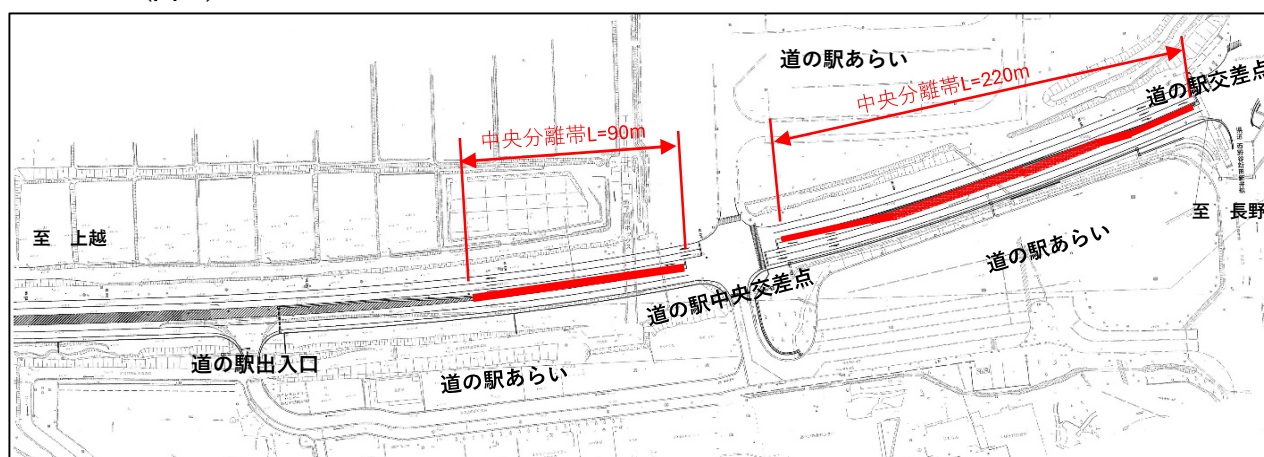
一般車が通行する脇での撤去作業となることと、隣接して「道の駅あらい」の商業施設がある現場条件のため、舗装版撤去を行う上で、以下の項目が課題となった。

課題①.ブレーカーによる連続騒音の発生。(施工面積から数日での作業完了が見込めない)

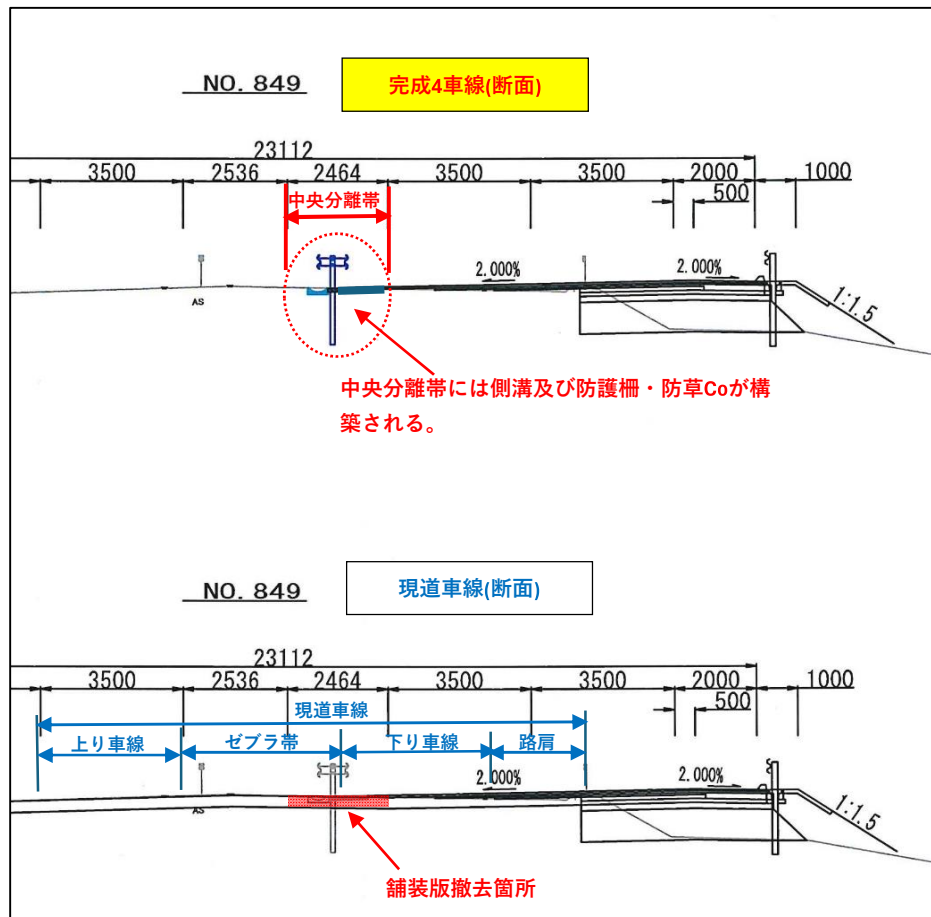
課題②.舗装屑の飛散。(通行する一般車に飛散する。)

課題③.舗装厚が25cmを超えるため、2回切断が必要となり施工日数が増加する。

(図-1)



(図-2)



3.方法

既設舗装版の撤去方法を路面切削機にて行った。(施工方法の変更)(写真-1)

なお、中央分離帯の幅を現地にマーキング(墨だし)することで、所定の撤去寸法を確保する。(写真-2)

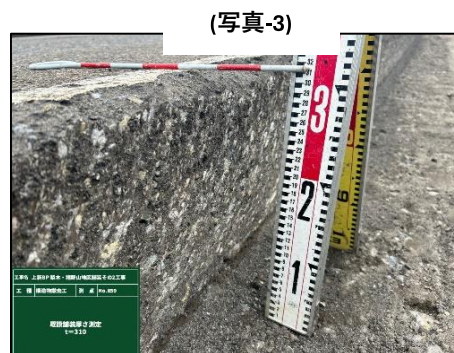
1層の切削厚を10cmとし、3層に分け厚さ30cmの切削を行う。(写真-3)



(写真-1)



(写真-2)



(写真-3)

4.結果

舗装版撤去を路面切削機で行うことで、課題をクリアすることができた。

課題①.ブレーカーによる連続騒音の発生。(施工面積から数日での作業完了が見込めない)
結果、ブレーカーを使用せず施工したため、近隣施設への騒音等の影響が無かった。

課題②.舗装屑の飛散。(通行する一般車に飛散する。)
結果、廃材は切削屑となり、切削機に付属するベルコンより大型ダンプに積み込まれる。
よって、舗装屑の飛散は無かった。

課題③.舗装厚が25cmを超えるため、2回切断が必要となり施工日数が増加する。
結果、舗装切断作業は不要となり、大幅に工程短縮を行えた。

5.考察及びまとめ

騒音抑制を行うと共に工程短縮することもでき、結果的に交通規制に要する作業日数短縮にもつながった。

